

# 御万人ぬ命

# 奪いしや戦争

# 心悲ししや

# 万代までいん

(西原の塔碑文より)

## 平和集会 — 坂田小 —

6月19日、坂田小学校(下地輝美校長)の体育館で平和集会が開かれ、全児童が参加しました。児童を代表し、友利竜也君(6年)が「平和集会を毎年開くのは、もう二度と戦争をくり返さないという気持ちを、いつまでも忘れずに持ち続けるため。平和な未来をつくるためには、子孫から子孫へ伝えていき、平和な世の中が続くように努力することが大切」と呼びかけました。読み聞かせでは、戦争で息子をなくした母を描いた絵本、『マブニのアンマー』をPTAの父母らが読むと、児童らは熱心に聞き入っていました。また、詩の群読や「月桃」を合唱することで、心を一にし、平和を願いました。



## 町内の戦跡巡り — 西原中 —

戦時中の町内の様子を知り、平和について考えようと、西原中学校(新垣道雄校長)の2年生が6月11日、町内の戦跡を巡りました。事前学習で戦跡資料を確認し、西原の塔・役場壕跡や小波津陣地壕跡、弾痕跡の石塀を見学。生徒らはそれぞれの戦跡で文教のまちガイドの説明を聞きながら、戦争の爪あとを見てまわりました。西原の塔では、同ガイドの玉那覇三郎さんが、沖縄戦で西原村の住民の約半数の命が奪われたことなど、戦争の悲惨さを訴えました。

戦跡めぐりの感想を、伊禮風沙さんは『今日は、西原の塔、壕、石塀などに行って、当時の人たちがどんな思いで戦争をしていたのかが分かったような気がします。陣地壕はとてせまくて、この中で暮らすのは大変だったと思うし、石塀ではたくさんの弾が石塀を貫通していてとても驚きました。また、西原の塔に刻まれているたくさんの人の名前をみて、どうしてこんなにたくさんの方が死ななければならなかったのか、とても悲しくなりました。今日の体験でたくさんの方が分かり、良かったです』とつづっています。

また、下門かなこさんも『ガイドさんが強調していた言葉は、みんなみじめとか、生々しいとかマイナスの言葉で、戦争をやっつけたい、楽しいことは一つもないなあと思いました。話を聞くより、見た方がリアルでした』と率直な意見を述べていました。



中村美津江さん(文教のまちガイド)から、弾痕跡の石塀の説明を受ける生徒ら

## 西原の塔で平和学習 — 西原南幼稚園 —

6月11日、西原南幼稚園(田港朝勝園長)の園児約70名が、西原の塔の前で平和学習を行いました。町平和の語りべの根路銘久子さんが、絵本「おじいの命くとうば」からアレンジして、戦争の悲惨さをわかりやすく伝え、「誰が戦争おこすの?どれが正しいことか、よくわかる大人になるよう勉強して」と訴えました。園児らは静かに話に聞き入り、戦没者に献花し、黙とうをささげました。



## 慰霊祭 — 小波津自治会 —

小波津自治会(糸数栄吉会長)は6月23日、沖縄戦で亡くなった小波津区民455人の名前が刻まれている小波津慰霊碑前で、慰霊祭を行いました。慰霊祭の前には、戦争の悲惨さを語り継ぐ平和学習として、同区の小中学生約20人が区内の戦跡を見学。慰霊祭では、子どもたちの平和学習の報告や合唱、平和へのメッセージが朗読され、戦没者のご冥福を祈りました。



児童館の子どもたちによる大型紙芝居『さわふじの木の下で』



フィナーレには全員で「翼をください」を熱唱!



オープニングを飾った半蔵さん

世界へ  
とどけ  
平和の願い

平和  
音楽祭  
2009



軽妙なトークで会場を沸かせた司会のかでかるさとしさん



平和宣言をするジュニアリーダー



メッセージ性のある音楽で平和への思いを伝える海勢頭豊さん



▲楽しい歌を聴かせてくれたかぐやひものお二人

YUKIHIROさんの心あたたまる音楽で会場は一つに



西原東小6年生による合唱が会場内に響き渡りました



華麗な演技・演奏を披露してくれた西原高校マーチングバンド部